

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：ピノキオ幼児舎藤沢保育園	種別：保育所			
代表者氏名：中山 祥子	定員（利用人数）： 78名			
所在地：〒251-0016 藤沢市弥勒寺3-15-3				
TEL：0466-41-9451	ホームページ：http://pinoh.co.jp/			
【施設・事業所の概要】				
開設年月日：2021年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）：ドリームワールド株式会社				
職員数	常勤職員： 14名	非常勤職員	13名	
専門職員	保育士	19名	調理員	4名
	保育支援員	2名	用務員	1名
	栄養士	1名		
施設・設備 の概要	保育室6室			

③理念・基本方針

<保育方針>
ひとりひとりに、のびやか保育
ピノキオ幼児舎は子どもたちがのびのびと成長し、ご両親が安心していただけるよう
5つのお約束を掲げた保育を行います。
～ピノキオ幼児舎5つのお約束～
1. テーマは、「のびやか保育」です。
2. 保育はクリエイティブだと考えています。
3. お子さまひとりひとりを見つめ、大切にします。
4. お母さんお父さんと共に進みます。
5. 「学び」を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

○「ひとりひとりに、のびやか保育」を保育方針に掲げ、子どもたちの主体性を尊重した保育に取り組んでいる。職員の意識を統一するため、毎週、グループ会議を開催する他、月1～2回、昼の休憩時間に数人が集まってディスカッションを定期的に行っている。園長や主任も参加して、保育指針や保育内容について話し合いを行っている。ディスカッションを繰り返すことで、保育士間のコミュニケーションの向上につなげている。また、月1回、法人内4園の園長が集まり、勉強会と情報交換を行うとともに、すべての園が毎年保護者アンケートを実施して、保育ニーズを把握し、保護者の声を日常の保育に活かしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年5月1日（契約日）～ 2026年2月12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○ピノキオ幼児舎藤沢保育園は、開所して5年目の、定員78名の保育園である。園は閑静な住宅街の中にあり、地域に密着した保育園を目指している。近隣には公園も多く、0歳～5歳の子どもたちが、のびのびと活動している。

○入園時の面接で、子ども一人ひとりの発達状況や家庭環境を確認している。0～1歳児の食事や生活の様子は、十分に把握するようにしている。確認した内容をもとに個別の計画を立て、安心して園の生活を送ることができるよう配慮している。低年齢の子どもには、できるだけ同じ保育士が関わるようにし、安心して生活ができるようにしている。

○子どもの気持ちは決めつけず「〇〇したかったのかな？」と気持ちを確かめながら寄り添っている。また、温かな視線で見守り、ゆっくり待つことを心がけている。入園当初は、子どもも不安が強く、主体的に動くことが少ないが、一人ひとりのペースで主体的に動けるよう取り組んでいる。

○子どもの発達に応じた玩具を用意し、コーナー遊びの環境を作り、遊びたい玩具を自分で選択して、自発的な遊びを行えるようにしている。身体を動かしたい子どもには、滑り台やジャンプ台で遊ぶ時間を設けるなど、動の遊び、静の遊びを組み合わせている。天気の良い日には、積極的に公園などに出かけ、どんぐり拾いをしたり、自由に自然に触れている。また、異年齢児の交流を大事にして、公園と一緒に出かけている。

○子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、個々の発達や年齢に合わせて、できないところを援助し、「できた！」という喜びから意欲につながるようにしている。子どもたちが自分でしようとする気持ちを大切にしている。健康イベントの「おなか元気教室」や絵本、紙芝居を活用して、基本的な生活習慣を身につける大切さを伝えている。

○0歳児は、保育に入る保育士を固定して、信頼関係を築き、安心して過ごすことができるようにしている。天気の良い日には、外気浴や散歩に出かけ、心地良さを感じたり、気分転換が図れるようにしている。発達に合った玩具を手作りし、温かみのある雰囲気作りに取り組んでいる。

○1、2歳児は、一人ひとりの指導計画を作成し、子どもの興味や発達に応じて、環境を整えている。保育士が牛乳パックで手作りしたトンネルなどのおもちゃを使い、自由な発想で活動し、子どもの「自分で！」という気持ちを受け止め、保育士からの声かけは少なめにし見守っている。

○3歳以上児は、子どもたちの興味に合わせて、室内の環境を整えている。3歳児は興味のある玩具で一人で遊ぶ、ままごと遊びやブロックの同じ玩具で別々に遊ぶ、友だちと一緒にごっこ遊びをするなどさまざまな様子があり、保育士間で連携を取り見守りを行っている。4歳児はごっこ遊びなど、友だちとの関わりが多くなり、自分の思いを通そうとする場面では仲立ちをして話し合う機会を作っている。子どもたちが輪になって、みんなの前で自分の思いを伝えることにも取り組んでいる。5歳児は夏祭りの内容を、クラスで話し合って決めている。子どもたちからはたくさんの意見が出て、盆踊りの練習も自分たちで行っている。保育士は子どもの主体的な活動をサポートし、活動の内容やエピソードは、写真や言葉でわかりやすく保護者に伝えている。

○年間食育計画を作成し、各クラスの月間計画に反映している。子どもたちは午前中によく身体を動かし、「お腹がすいたからご飯が食べたい！」と、すすんで食事を摂ることができるようにしている。食事の完食は求めず、楽しく食事することを大事にし、一人ひとりの適量で食べられるようにしている。食育への取り組みは、

紙芝居などを使い、年齢に合わせて行っている。幼児クラスでは栄養士と連携し、クッキングの時間を作り、おにぎりやパンにジャムを塗ったり、お月見会のお団子作りなどを行っている。

○子どもたちの登降園時には、積極的に保護者に話しかけ、コミュニケーションをとるよう心がけている。また、保護者が相談しやすいよう、担任の他にだれでも、いつでも、相談ができることを、保護者会や園だよりで知らせている。職員全体で相談しやすい雰囲気を作り、園全体で子どもたちを見守る体制を整えている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育園運営全般について評価を行い、自らも確認する機会となり、開園から5年目となる現時点の保育園の状況を改めて知り、振り返ることができました。その中で職員が現在まで意識をして築いてきた部分、また、今後更に力を入れて取り組むべき課題も見えてきました。

今後、この地域で、保育園としての存在価値をもち、子どもの育ちと社会に貢献できる私たちであるよう、課題に向き合って参りたいと思います。

今回の第三者評価の機会を心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり

第三者評価結果

事業所名：ピノキオ幼児舎藤沢保育園

共通評価基準 (45項目)

I 福祉サービスの基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
【1】 I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
<コメント> 保育理念や保育方針は、重要事項説明書に記載し、2月末から3月にかけて行う入園説明会の際に保護者に説明している。入園説明会は個別に行い、面談を行いながら、子どもの情報を入手している。また、4月に開催する保護者会にて、理念や方針に基づいた保育内容を伝えていく。今年度は「ひとりひとりにのびやか保育」についての考えや思いを伝えている。職員には、5月の職員研修の際に、保育理念や藤沢保育園の保育について、新人職員を含め、職員全体で話し合う場を作って学んでいる。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者評価結果
【2】 I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<コメント> 市の人口動向や今後の地域の変化や情報を入手して、地域の保育ニーズを分析するなど、本社のドリームワールド株式会社と話し合いを行っている。法人内には4ヶ所の保育所があり、月1回、4園の園長が集まって、園長会を開催している。園長会では、保育コストや利用率の現状などを伝え合い、勉強会と情報交換を行いながら、今後の対応を検討している。また、年3回、フランチャイズ本部のピノキオコーポレーションの園長会議にも参加して、他園の取り組みを参考にしたりしている。保護者には、毎年定期的にアンケート調査を実施して、保育ニーズを把握するとともに、可能な部分は改善に努めている。	
【3】 I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
<コメント> 本社のドリームワールド株式会社において、各園の状況を把握、分析している。保育士の確保が厳しい現状があり、社内の園長会で職員の声を本社に伝えている。保育士確保のアイデアを持ち寄り、職員アンケートを実施して、働きやすい環境作りに取り組んでいる。職員アンケートは年2回実施し、意向調査や満足度調査を行っている。また、保護者アンケートの意見を聞き、運動会の開催場所を、屋外から屋内に変更したりしている。実習生の受け入れに備え、フランチャイズ本部のピノキオコーポレーションから、受け入れマニュアルを取り寄せている。物価高騰の問題もあり、特に食材料の値上げが著しく、本社や園の職員と一緒に対応策を検討している。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者評価結果
【4】 I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
<コメント> 本社において、5ヶ年の中・長期計画を策定している。計画は、経営組織・事業管理・財務管理・人事管理・倫理性の5項目からなり、年度初めの園長会で配布されている。子どもたちの主体性を育む保育を目指しているが、これまで職員の定着率や人員確保に課題があり、計画が思うように進んでいない現状がある。それらの課題点を踏まえ、園内研修を活発に行い、中期的な計画を少しずつ進めている。園内研修は、全員が参加する研修を年2回開催する他、月1～2回、昼の休憩時間に数人が集まってディスカッションを行っている。園長や主任も参加して、保育指針や保育内容について話し合いを行っている。ディスカッションを定期的に行うことで、保育士間のコミュニケーションの向上につなげている。	

<p>【5】 I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 中・長期の計画を踏まえ、事業計画に重点目標を掲げている。今年度の重点目標は昨年度に続き、①保育士人材の育成の向上、②保育の質向上（保育力）、③地域の関わりをあげ、それぞれ現状と課題、改善策（何をどのように・いつまでに）を具体的に記載して、目標に向かって取り組みを進めている。また、それぞれの取り組みの状況を、9月には中間報告書として、3月には実績報告書としてまとめ、本社に提出し、園長会で内容を取り上げている。</p>	
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p>	
<p>【6】 I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 事業計画や行事計画に基づいて行ってきた保育の内容を、担任会議やグループ会議で振り返り、職員全体で確認している。そしてあらたな課題や意見をもとに、園長と主任で次年度の計画を策定している。具体的には、園長が事業計画を、主任が行事計画を作成している。また、3月末の「新年度準備」の際に、職員を参集し、新年度の計画書を配布して、全体で確認している。担任会議は月に1回以上開催し、常勤の職員が参加している。乳児会議や幼児会議のグループ会議は、週1回開催している。</p>	
<p>【7】 I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。</p>	<p>b</p>
<p><コメント> 事業計画は内部の内容が多いため、保護者には周知していないが、年間行事計画など、保護者に関係のある計画書は配布している。保護者会では、保育理念や思い、保育内容、行事や年間計画などを伝えている。不参加の保護者には、行事計画書と保護者会の議事録のコピーを渡し、口頭でも内容を伝えるようにしている。また、園だよりなどを通して、保育（行事内容など）の説明や準備物を伝えている。</p>	

4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

<p>(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【8】 I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 年2回、職員会議を開催する他、月1回以上、担任会議を開催して、保育の振り返りやヒヤリハット・軽微な事故の振り返りを行い、PDCAサイクルを意識した質の向上に努めている。また、週1回、グループ会議を開催して保育内容を振り返っている。毎年、利用者アンケートを実施して、分析内容について園長会の場で話し合っている。全職員を対象に、園長との個人面談を年3回行っている。職員は年度初めに目標を立て、自己評価シートを用いて、個々に振り返りを行っている。園長との個人面談は、年度初め、中間、年度末に行い、職員一人ひとりの成長を確認する場となっている。</p>	
<p>【9】 I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 第三者機関による利用者アンケートの結果をまとめて分析し、園の現状を保護者に文書で伝えている。また同時に、担任会議や職員会議の中で職員間で共有する他、園長会や本社の職員とも共有している。年2回、本社の社長、園長、主任、保護者の代表、第三者委員（民生委員児童委員、自治会長）で、運営委員会を開催し、園の状況を伝えている。保護者からの要望で、あいうえおや数字のプリントを作成しており、保護者会で内容を報告している。</p>	

II 組織の運営管理

1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。	第三者評価結果
【10】 II-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<コメント>	
個人情報取り扱い責任など、責任者の掲示を、園内の掲示板や重要事項説明書への掲載などで行っている。災害時の業務継続計画や保育安全計画を立て、職員間で役割分担を共有している。また、園内に掲示することによって、保護者へも周知している。園長不在時の権限は主任に委譲しているが、主任が不在の場合は、各フロアリーダーが役割を担うことになっている。園長は、外出時には園の携帯電話を所持している。	
【11】 II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<コメント>	
月1回、市内の園長会にオンラインで参加する他、苦情対応の研修などに園長が参加し、遵守すべき法令などを正しく理解するよう取り組んでいる。防火管理者の講習会や衛生推進者講習なども、園長が受講している。取引業者との関係については、本社職員と連携を図っている。また、児童相談所や子ども家庭センターなどとの連携を図り、個人情報や人権擁護などの観点から、慎重に取り組んでいる。子どもたちに関する書類は園外への持ち出しを禁止し、個人情報保護の内容を職員に周知している。	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	
【12】 II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
<コメント>	
子どもの主体性を育む保育を意識しているが、さまざまな保育経験を持つ保育士の中で、保育の意識統一や保育内容の向上に向けて、日々検討している。保育指針や主体的保育に関する学びの機会を、昼の休憩時間を使った少人数のディスカッションで行い、園長や主任も参加している。月1回以上開催する担任会議の前には、園長、主任、リーダーでリーダー会議を開催し、現状を把握して、指導の方向性と方法を検討している。保育の質の向上に向け、園長は毎日、子どもたちの姿を確認し、必要があれば、保育の現場に入るようにしている。	
【13】 II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<コメント>	
1年間の予算を立て、本社職員と報告、連絡、相談を繰り返しながら、財務管理を行っている。また、予算については一部を職員と共有し、保育教材の準備や購入の目安にしている。値段が高いものは、前年度に購入希望をあげてもらうようにして、予算に組み込むようにしている。シフト表は主任が作成しているが、土曜保育の際の職員数を多くして、事務時間を確保したりしている。職員の声拾い、意見を聞きながら、前向きな姿勢で、職員が働きやすい環境整備を行うようにしている。	

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果
【14】 II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
<コメント>	
職員の採用は、本社が担当している。採用に際しては、現場の声を挙げ、現場と会社が共に考えて取り組んでいる。人材の確保は厳しい状況が続く、学校を卒業してくる新卒者の応募はなく、中途の採用がほとんどの現実がある。採用活動時の園見学では、保育内容や現状を丁寧に説明し、入職後に違和感がないよう努めている。入職してくる職員のこれまでの経験の中から、プラス面を保育に取り入れるようにしている。	

【15】 II-2-(1)-②
総合的な人事管理が行われている。

a

<コメント>

自己評価シートのチェック項目に、「期待する職員像」を明記している。自己評価シートは、職員それぞれが年2回チェックして、園長や主任との面接を行い、評価を賞与に反映している。就業規則などに関する規程類は事務室に置き、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。年2回、本社が職員にアンケート調査を実施し、改善が必要な内容がある時には、本社と園長が連携して、問題解決に取り組んでいる。産休や育休の制度や介護休暇制度、勤務地の異動など、ライフワークバランスやライフステージに合わせた働き方ができるよう取り組んでいる。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

【16】 II-2-(2)-①
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

a

<コメント>

職員へのアンケートと意向調査を実施して、就業場所などの職員の希望を把握するようにしている。有給休暇の取得状況は表を作成して園長が管理し、取得が5日に満たない職員については、早めに声掛けしている。有給休暇の取得は、主任とシフト調整を行いながら、利用できる環境を整えている。また、年1回、全職員に健康診断を実施するとともに、メンタルヘルスについても対応するようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

【17】 II-2-(3)-①
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

a

<コメント>

職員全体で、目標管理に取り組んでいる。職員それぞれが年度初めに自己の目標を立てている。目標は、マナー目標と職種別目標の2つで、年度内に達成可能な目標としている。自己評価シートに基づき、年度の途中と年度末に自己評価して、園長との面接の中で、進捗状況の確認と目標達成度の確認を行っている。期待する職員像も自己評価シートの中で確認を行い、園長と振り返りを行っている。

【18】 II-2-(3)-②
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。

a

<コメント>

階層別研修については、フランチャイズ本部のピノーコーポレーションの新人研修や3ヶ月研修、2年目研修などのキャリアアップ研修を、オンライン研修などで受講している。外部研修の案内が届いた時は、その都度、職員に案内している。年2回の園内研修は、園長が内容を企画して、5月と12月の行事の後に実施している。5月には、大人と子どもの人権をテーマに開催し、12月には不適切な保育をテーマに開催する予定でいる。

【19】 II-2-(3)-③
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。

a

<コメント>

外部研修に参加した職員は、3日以内に報告書を提出し、担任会議や職員会議の場で、伝達研修を行っている。外部研修は、職員が年1回は参加できるよう調整している。新人職員に対してのOJTは、人員不足により十分に行うことができなかったが、主任を中心にして、次年度からは具体的に取り組んでいく予定でいる。新人職員ができるだけ困ることがないように、最適な配置を心がけている。ピノーコーポレーションの研修では、階層別の研修の他、言葉かけの研修や怪我の対処法などにも参加している。

(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	
【20】 II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<コメント> 幼児教育の大学などに連絡を取り、実習生の受け入れが可能なことを伝えているが、これまで受け入れが実現したことはない。いつでも受け入れが可能なように、フランチャイズ本部のピノコーポレーションから実習生の受け入れマニュアルを入手し、それを参考に、現在、園の受け入れマニュアルを作成中である。保育に興味のある学生などの保育体験は受け入れており、市内の高校生が環境整備や保育場面に、体験学習として参加している。	

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者評価結果
【21】 II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		a
<コメント> ホームページやパンフレットに、基本理念や保育内容などを公開するとともに、見学者などにパンフレットを配布して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。年1回、保護者に利用者アンケートを実施して、アンケート結果をもとに、改善できる箇所はすぐに改善を行っている。苦情も真摯に受けとめ、運営委員会に内容を報告している。玄関の外の門に、掲示板を設置し、地域に向けて、子育て相談や園庭開放の案内を掲示している。		
【22】 II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		a
<コメント> 職員には、実際に行うこともある物品購入の際のルールなどを周知している。監査には本社の社長や税理士も参加して、経営面でのサポートをお願いしている。また、フランチャイズ本部のピノコーポレーションからは、月1回、スーパーバイザー2名が訪れ、保育や安全、運営の細かな点を確認し、アドバイスももらっている。最近では、園内の整理整頓が徹底されていること、子どもに対する保育士の言葉かけが良いことなど、プラス面の指摘も受けている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者評価結果
【23】 II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		a
<コメント> 主任が担当して、地域に向けて子育て相談や園庭開放を行っている。園の見学に来た方にアナウンスしたり、園の掲示板に案内を掲示してアピールしているが、積極的な参加は見られていない。また、市から送られてくる地域の情報などは、掲示板に掲示したり、保護者に一斉メールなどで情報を提供している。これまで、地域の行事に、子どもたちが参加した実績はないが、地域の高校とは体験学習などで、関係作りを行っている。町内会の公園清掃には園長が参加し、地域の方と話す機会を作っている。今後も無理なく公園清掃に参加して、地域の方々との関係作りに努めていきたいと考えている。		
【24】 II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b
<コメント> 園長を担当として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティアの受け入れマニュアルは、現在、整備中である。昨年は、中学校の職場体験で5名の受け入れを行っている。また、今年度は保育学生の職場体験に対応し、地域の高校と連携して、学生ボランティアと子どもたちが触れ合う機会を提供している。今後は、花壇の手入れなどに、地域の方にボランティアをお願いしたいと考えている。		

(2) 関係機関との連携が確保されている。	
【25】 II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<コメント> 児童相談所や子ども家庭センター、保育課などの機関と連携を取り、虐待などの疑いのある家庭を見守ったり、発達の気になる子どもの育ちについて相談している。連携は個人情報の守秘義務の遵守のもと、職員間で情報共有を行い、適切な判断と関わりができるようにしている。要保護児童対策地域協議会とも、連携を図っている。消防署の協力で、子どもたちが救急車や消防車に触れる機会を作っている。また、保育課や警察の協力で交通安全教室を開催したり、11月には、児童相談所と企業の協力で、虐待に関する講話を子どもたちが受ける予定である。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
【26】 II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
<コメント> 運営委員会を開催して、地域の自治会や民生委員児童委員の方から、地域の状況などの話を聞く機会を設けている。また、地域の公園清掃に園長が参加して、地域のニーズの把握に努めている。地域に向けて、子育て相談や園庭開放を行っているが、利用がほとんどないことから、今後はアピールの方法を工夫していく必要があると捉えている。地域は高齢化が進行しているが、新しいマンションなども建ち、転居してくる人もいる。子育て家庭も増えていると想定できるので、子育て相談などの実施について、工夫していく必要があると考えている。	
【27】 II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<コメント> 万が一、地域全体で災害が起こった場合に、地域住民の状況に応じて対応できるように、災害時の業務継続計画を作成している。園の2階に、子どもたちと職員用に非常食と飲料水を備蓄しているが、地域用にプラスアルファ分を備えている。希望者には一時保育を提供する体制を整えている。一時保育は、現時点では、利用はない。子どもたちの散歩中、公園で出会った人には積極的に挨拶し、子育て相談などに対応することもある。	

III 適切な福祉サービスの実施

1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		第三者評価結果
【28】 III-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	
<コメント> 「ひとりひとりにのびやか保育」の理念は、入職時研修や園内研修で、年1回は振り返る機会を持つようになっている。日々の保育の活動の中では、保育士が問題提起している。こども同士のトラブルは、自分たちで解決できるよう、やりとりを見守って、相手の気持ちが理解できる時間を持つことができるようにしている。大人の考えを押し付けることなく、子どもそれぞれの考えを尊重した取り組みを行っている。		
【29】 III-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a	
<コメント> 職員は採用時に、秘密保持規程への同意や、個人情報保護規程の内容を確認している。また、個人情報保護規程は、玄関に掲示して、誰でも確認できるようにしている。保育活動の中では、更衣時に外部から見えないうパーテーションを設置したり、幼児は性差に配慮している。保護者には、園内の写真撮影や、他の園児の写真のSNS投稿を禁止していることを、入園時に説明して同意を得ている。園からの外部への発信は限定しており、子どもたちの活動の写真も、廊下に掲示するのみとしている。		

(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

【30】 Ⅲ-1-(2)-①
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。

a

<コメント>

園のパフレットに、保育方針や1日の活動を載せ、また、写真も使用して分かりやすくしている。内容の見直しも、適宜行っている。保育内容については園庭開放を行う他、見学は随時受け入れ、入園後の姿をイメージできるようにしている。その他、延長保育時間や入園後にかかる費用なども、質問を受けながら説明している。保育内容をパフレットに掲載し、さらに多くの保護者に情報が届くよう取り組んでいる。

【31】 Ⅲ-1-(2)-②
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。

a

<コメント>

保護者とは個別に面談を行い、重要事項説明書の内容と一緒に確認し、質問を受け、同意書にサインをもらうよう努めている。また、入園後は日々の声かけを行う他、年1回個別面談を行い、保護者の理解を得るよう配慮している。食事面で気になることや食物アレルギーのある子どもについては、栄養士と一緒に面談を行っている。外国籍の保護者へは、相手が内容を理解し、安心して利用できるよう配慮している。

【32】 Ⅲ-1-(2)-③
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。

b

<コメント>

保護者には入園時に、転園先に情報提供を行う可能性がある旨の承諾を得ている。引継ぎに関して特に決まった書面は用意していないが、継続した保育に配慮して、転園先の施設に情報を提供している。また、退園後も、いつでも相談を受けることができることを説明している。保育所などの変更に対して、必要な情報提供はできているが、保護者への相談窓口の説明などは、文書化が必要と捉えている。

(3) 利用者満足の向上に努めている。

【33】 Ⅲ-1-(3)-①
利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。

a

<コメント>

食事の時間は、子どもたちの状況に合わせて、柔軟に対応できるようにしている。また、毎年、保護者アンケートを行い、前回の結果と比較したりしている。アンケートの結果は、保護者会でフィードバックしている。アンケートには、保護者が直接話しにくいことの記入もあり、改善につながる言葉と捉え、職員会議で対応策を検討している。駐車台数など、ハード面の改善が難しい場合は、保護者の協力も得るよう説明している。

(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

【34】 Ⅲ-1-(4)-①
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。

a

<コメント>

苦情処理要綱に従って、苦情受付窓口を設置し、掲示板にて連絡先を伝えている。また、玄関に意見箱を設置して、保護者が苦情を伝えやすいようにしている。苦情があった際は、改善につながる言葉と捉え、職員全体で改善策を検討している。解決までの詳細は、苦情処理記録に記録している。実際には、保護者と保育者との間で、伝えた言葉の理解の違いで苦情にあがった事柄があったが、お互いに話を聞き、解決に至ったことがある。

【35】 Ⅲ-1-(4)-②
保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。

a

<コメント>

重要事項説明書に、相談や苦情の責任者を記載し、また、掲示板でも、仕組みを保護者に周知している。また、保護者アンケートに、担任の保育士がいないと、声がかけづらいという意見があり、入園説明会や保護者会で、主任保育士や園長など、誰にでも意見を伝えてほしいことを伝えている。また、日々の関わりの中で、園長を含め職員全員が積極的に保護者に声をかけよう意識している。面談室を設け、落ち着いて話ができる環境を整えている。

<p>【36】 Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 保護者から相談や意見を受けた場合には、主任や園長に報告して、すぐに対応している。主任や園長が不在の際には、フロア内で対応している。保護者参加の行事の後には、必ずアンケートを実施して、次年度の参考にしている。また、システム上すぐに解決できない内容については、代替案を提示したり、すぐに対応できない理由を伝えたりして、誠実に対応している。対応マニュアルについても、職員全体で見直しを行っている。</p>	
<p>(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。</p>	
<p>【37】 Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 他の保育園で起きた事故のニュースなどは、担任会議で周知したり、休憩室に掲示して、安全に対する意識を高めるようにしている。「業務継続計画」(BCP)を作成し、職員に研修を行うとともに、非常食などの備蓄を行っている。また、年間の安全計画を作成し、安全・衛生リーダーを決め、毎月、室内環境や玩具の点検、改善を行っている。ヒヤリ・ハット事例を収集し、職員会議などで内容を検討している。職員は出勤時に、連絡ノートとヒヤリ・ハット事例を確認するようにしている。軽微なインシデントが発生することもあり、ヒヤリ・ハット事例を共有し、事故に至らないよう取り組んでいる。</p>	
<p>【38】 Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 園長を衛生推進者とし、厚生労働省の「感染症ガイドライン」や「感染症対応マニュアル」に基づいて、園内の衛生管理を実施している。また、園内研修などで定期的に嘔吐物の処理方法を確認している。特に感染症の流行期には、換気や園内の消毒などを意識し、感染防止に努めている。感染症が発生した時は、メール配信にて保護者に情報を提供し、感染症が広がらないよう保護者に協力を仰いでいる。インフルエンザやRSウイルス(ウイルス性細気管支炎)などの感染症が広がった場合には、保健所へ連絡し連携している。子どもに37.5℃以上の発熱があった際には保護者に連絡し、迎えを要請して、子どもの安全を確保している。</p>	
<p>【39】 Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 災害時の業務継続計画(BCP)を作成し、大規模災害が起こった時の対応を決めている。今年度は、引き取り訓練時に、職員全体でBCPの内容を確認し、実際のハザードマップを使用して訓練を行っている。子ども及び職員の3日分の非常食やガスコンロ、ポータブルトイレなどの災害用品を備蓄し、非常食や飲料水の消費期限の管理は栄養士と園長で行っている。毎月、避難訓練を実施する他、消防署と連携して通報訓練や消火訓練を行っている。警察署とは交通安全について学ぶ機会を作り、安全確保の意識向上に取り組んでいる。</p>	

2 福祉サービスの質の確保

<p>(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。</p>		<p>第三者評価結果</p>
<p>【40】 Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。</p>	<p>a</p>	
<p><コメント> 重要事項説明書に、基本理念や基本方針(5つのお約束)を記載し、子どもの権利擁護に関わる内容を文書化している。職員には、入職時研修や園内研修で周知徹底している。保育内容については、各クラスのデイリープログラムを作成し、日々の保育が大きく変わることがないようにしている。また、職員のマナーも含め、年2回、自己評価を行い、園長との面談の中でも実際の内容を確認している。</p>		
<p>【41】 Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	<p>a</p>	
<p><コメント> 保育内容については、年間計画を4期に分け、期ごとに評価と反省を行い、年間計画の変更を検討している。また、グループ会議では週間計画を、担任会議では月間計画について評価と反省を行い、状況に応じて次の計画を見直している。見直しについては、保護者からの意見も反映している。</p>		

(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

【42】 Ⅲ-2-(2)-①
アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。

a

<コメント>

入園時に、育ちについての調査書やアレルギー、健康に関する内容の調査書を入手し、子どもの状況を把握している。アレルギーについては、厚生労働省の「アレルギー対応ガイドライン」に沿い、生活管理指導表の提出を求め、医師の指示のもと、保護者や担任保育士、栄養士、主任保育士で話し合い、計画を立てて対応している。集団での保育が困難なケースは、市の保育課のカウンセラーと連携し、加配はないが、サポートする人員を配置するよう努めている。

【43】 Ⅲ-2-(2)-②
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。

a

<コメント>

指導計画の見直しを定期的に行い、変更内容は担任会議で周知している。急な変更については、担任からの申し出と園長の判断で変更している。変更時には、グループ（幼児・乳児）会議を開催し、情報を共有して、保育実践がスムーズに行えるようにしている。乳児クラスは、個別の計画について振り返りを行い、次月の目標などを話し合っている。内容は、事務所に設置している会議ノートなどで確認することになっている。

(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

【44】 Ⅲ-2-(3)-①
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

a

<コメント>

保育日誌に、日々の活動内容や、子どもたちの様子を記載している。0～2歳児や支援が必要な子どもについては、個別の指導計画を立て、計画書の評価・反省欄に振り返りの内容を記載している。また、毎月末に、発達経過記録を作成し、個々の発達状況も確認している。3～5歳児については、2ヶ月、4ヶ月ごとに発達状況を記録している。職員間での情報共有として、各種の情報共有ノート置き、すべての職員が確認している。

【45】 Ⅲ-2-(3)-②
子どもに関する記録の管理体制が確立している。

a

<コメント>

個人情報保護規程に沿って、職員は入職時に個人情報の取り扱いの同意書を提出している。園長を記録管理の責任者として、職員全体に書類の取り扱い方法を指導している。児童票などの個人情報の書類は、鍵のかかる棚に保管している。また、書類は必要時以外は持ち出さないこと、職員の家を持ち帰ることは禁止していることを周知、徹底している。また、職員がSNSに写真などを投稿してしまうことのないよう、個人用の携帯での写真撮影は禁止している。保護者にも、入園時に個人情報保護規程を説明し、同意書の提出を求めている。

第三者評価結果

事業所名：ピノキオ幼児舎藤沢保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a

<コメント>

全体的な計画は、「ひとりひとりにのびやか保育」の理念のもと、児童福祉法や保育所保育指針を参考にして作成している。年度末に園長と主任保育士が中心になり、計画の評価、反省を行い、乳児・幼児クラスのリーダーの意見や、現場の意見を積極的に取り入れながら、新年度の計画を立案している。保育目標や養護、教育などの各項目ごとに、0歳から5歳児それぞれの年齢の発達特性を考慮しながら立案している。地域の現状の把握は、近くの公園などで遊ぶことで、地域の様子を知る機会としている。園庭の開放や地域に向けてボランティアの募集を行い、交流を持てるようにしている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a

<コメント>

24時間換気システムにて、保育室内を換気している。温度、湿度は、室内に設置した温湿度計で保育士が確認し、保育士同士で声をかけ合って調整している。室内に2台のサーキュレーターを設置し、空気の流れを作っている。夏期は熱中症対策を踏まえて、26℃程度とし、低くなりすぎないようにしている。寝具は毎週土曜日に天日干しを行い、年1回、業者による熱消毒を実施している。玩具類は午睡中に毎日消毒している。絵本コーナーや遊びのコーナー、作業ができるコーナーなど、子どもたちが自由に好きな遊びができるよう工夫している。幼児のトイレは、廊下の隅に設置し、プライバシーを確保しているが、子どものトイレ使用時には、保育士が入り口付近で声をかけるようにして、安全面に配慮している。保育室の窓が広いので、着替えは窓から離れた場所で、パーテーションを使用して行っている。

A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
---	---

<コメント>

入園時の面接で、子ども一人ひとりの発達状況や家庭環境を確認している。0~1歳児の食事や生活の様子は、十分に把握できるようにしている。確認した内容をもとに個別の計画を立て、安心して園の生活を送ることができるよう配慮している。低年齢の子どもには、できるだけ同じ保育士が関わるようにし、安心して生活ができるようにしている。子どもの気持ちは決めつけず「○○したかったのかな？」と気持ちを確かめながら寄り添っている。また、温かな視線で見守り、ゆっくり待つことを心がけている。入園当初は、子どもも不安が強く、主体的に動くことが少ないが、一人ひとりのペースで主体的に動けるよう取り組んでいる。月1回の担任会議や週1回のグループ会議で、子どもの状況を共有している。子どもをせかせさ言葉やダメなどの禁止言葉は使わないよう、園内研修などで伝え、意識するようになっている。

A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
---	---

<コメント>

子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、個々の発達や年齢に合わせて、できないところを援助し、「できた！」という喜びから意欲につながるようにしている。子どもたちが自分でしようとする気持ちを大切にしている。手洗いは、イラストを見ながらできるようにしている。長時間保育の子どももいるため、幼児クラスも午睡の時間を設けている。午睡は、基本的には身体の声聞く、リラックスする、休息をとる時間と考え、すべての子どもが眠ることを目的にはしていない。寝付くことができない子どもや、早く目が覚めてしまった子どもは、寝ている子どもの妨げにならないよう過ごしている。健康イベントの「おなか元気教室」や絵本、紙芝居を活用して、基本的な生活習慣を身につける大切さを伝えている。

【A5】 A-1-(2)-④
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

a

<コメント>

子どもの発達に応じた玩具を用意し、コーナー遊びの環境を作り、遊びたい玩具を自分で選択して、自発的な遊びを行えるようにしている。身体を動かしたい子どもには、滑り台やジャンプ台で遊ぶ時間を設けるなど、動の遊び、静の遊びを組み合わせている。天気が良い日には、積極的に公園などに出かけ、どんぐり拾いをしたり、自由に自然に触れている。また、異年齢児の交流を大事にして、公園と一緒に出かけている。昼食時間も幅をとり、子どもの遊びたい気持ちを尊重している。異年齢児の交流では、5歳児が「トントン隊」として、1～2歳児の午睡の手伝いをしている。5歳児は「お散歩遠足」のおやつを近所のスーパーに買いに行き、さまざまな人と関わりが持てるようにしている。

【A6】 A-1-(2)-⑤
乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

0歳児は、保育に入る保育士を固定して、信頼関係を築き、安心して過ごすことができるようにしている。天気の良い日には、外気浴や散歩に出かけ、心地良さを感じたり、気分転換が図れるようにしている。発達に合った玩具を手作りし、温かみのある雰囲気作りに取り組んでいる。子どもの動線を考え、室内のレイアウトを整えている。保育士は、オムツ替えなど、言葉で伝えながら、無理強いないようゆったりと関わるようにしている。喃語や子どもからの表現に対して、言葉やスキンシップで答え、丁寧な関わりを持つようにしている。保護者とは連絡帳アプリを使用して、子どもの1日の様子を共有している。

【A7】 A-1-(2)-⑥
3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

一人ひとりの指導計画を作成し、発達状況を保育士間で確認し合い、同じ対応ができるようにしている。また、子どもの興味や発達に応じて、環境を整えている。保育士が牛乳パックで手作りしたトンネルなどのおもちゃを使い、自由な発想で活動し、子どもの「自分で!」という気持ちを受け止め、保育士からの声かけは少なめに見守っている。思うように自分ではできず、手伝って欲しい仕草や言葉が見られた際には、本人の意思を確かめながらの援助を心掛け「自分でできた」という満足感を得られるようにしている。屋外の遊びでも、個々の探索活動を楽しめるよう見守っている。お布団のコーナーを作り、それぞれのタイミングで午睡ができるようにしている。トイレトレーニングも子どもの意欲を第一に考え、無理強いないよう取り組んでいる。

【A8】 A-1-(2)-⑦
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

子どもたちの興味に合わせて、室内の環境を整えている。3歳児は興味のある玩具で一人で遊ぶ、ままごと遊びやブロックの同じ玩具で別々に遊ぶ、友だちと一緒にごっこ遊びをするなどさまざまな様子があり、保育士間で連携を取り見守りを行っている。うまく友だちと関われず助けを求めている時はお互いの気持ちをしっかり把握しながら仲立ちをしている。4歳児はごっこ遊びなど、友だちとの関わりが多くなり、自分の思いを通そうとする場面では仲立ちをして話し合う機会を作っている。子どもたちが輪になって、みんなの前で自分の思いを伝えることにも取り組んでいる。5歳児は夏祭りの内容を、クラスで話し合って決めている。子どもたちからはたくさん意見が出て、盆踊りの練習も自分たちで行っている。散歩先も、子どもたちが話し合いで決めることもある。保育士は子どもの主体的な活動をサポートし、活動の内容やエピソードは、写真や言葉でわかりやすく保護者に伝えている。

【A9】 A-1-(2)-⑧
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

b

<コメント>

現在、該当する子どもは在籍していない。該当する子どもを保育する際には、保護者の意向を確認した上で、個別の計画を作成している。職員間で情報共有や話し合いを行い、主治医の助言なども参考にしながら、保育を行うようにしている。保護者と定期的に面談を行い、困ったことがあれば相談を受け、必要に応じて市の窓口につなげる支援も行っている。子どもが興味を示した活動や、気の合う友だちがいるときは、楽しい経験、心地よい経験となるよう、保育士が仲立ちしている。

【A10】 A-1-(2)-⑨
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

18時以降は、2歳児クラスの保育室で一緒に過ごすため、幼児の保育室から遊びたいおもちゃを持ち込んだり、スペースを分けたりしている。また、紙芝居などで気分転換を図り、子どもたちがリラックスして過ごせるようにしている。保護者の希望で軽食を提供できるようにしているが、現在は申し込みがなく、提供はしていない。子どもの日中の様子は、連絡帳アプリを使用したり、遅番の保育士に引き継ぐなど、状況に合わせて対応している。直接、伝える必要がある場合は、保育士が残業して伝えるようにしている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

幼保小連携担当者会議に、5歳児の担任が参加し、近隣の保育園や小学校との交流や情報交換を行っている。内容は職員間で共有している。年長児は就学に向け、一人ひとりの様子をみながら午睡の時間を短くし、9月以降は基本的に午睡の時間はなくしている。避難靴の出し入れや履き替えも自分で行い、就学時の上履きへの履き替えなどに慣れようとしている。保護者とは、年明けから年度末にかけて面談を行い、子どもの成長を共有し、保護者の不安を聞くことで、安心して就学ができるようサポートしている。5歳児の担任が保育所児童保育要録を作成し、内容は園長が確認している。小学校から配慮の必要な子どもについて問い合わせもあり、直接、小学校に出向いて、情報を交換し、連携をとるようにしている。

<p>A-1-(3) 健康管理 【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

年間保健計画を作成し、計画に沿って健康管理を行っている。子どもの健康状態は、グループ会議や担任会議で、職員間で共有している。入園時説明会には体調の悪化時、けがをした時の対応について説明している。また、入園時面談では、一人ひとりの子どもの既往歴や予防接種の状況、アレルギーの有無などを確認している。発熱や体調が悪化した時には、保護者に連絡し状況説明をしている。怪我をした場合は電話で状況を説明し、その怪我の状況によっては病院を受診している。午睡時は、0歳児は5分ごと、1～2歳児は10分ごと、3歳児以上は30分ごとに呼吸、顔色、体位などの状況を確認して、SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防に努めている。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>

年2回、健康診断と歯科検診を、子どもたち全員を対象に実施している。検診結果は個人の健康記録簿に記録している。歯科検診の際に、歯磨き指導などは行っていないが、今後は機会を作りたいと考えている。現在は、磨き方をイラストでわかりやすく掲示し、昼食後に必ず歯磨きを行っている。保護者に毎月の身体計測（身長・体重）の記録をグラフで表示し、連絡帳アプリで伝えている。保護者はカウプ指数（乳幼児の発育状態の程度を表す指数）も同時に確認できるので、日頃の食生活に活かすことができている。

<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

入園時の面談で、アレルギーの有無を確認している。現在、食物アレルギーを持つ子どもが2名在籍しており、かかりつけ医の指示のもと、対応を行っている。保護者とは、献立の確認を行っている。配膳の前には職員間で献立の読み合わせを行い、アレルギーを口頭で確認している。食事はワゴンにはのせず、保育士が直接、調理室から受け取り、受け取りのサインをしている。誤食を防ぐために、食器は専用の物を使用している。担当保育士が食事が終わるまでつき、使用するエプロンもアレルギーのある子ども専用になっている。席も決めているが、クラスの子どもの顔がみえる場所になっている。熱性けいれんを起こしやすい子どもに対しては、解熱剤を預っている。

<p>A-1-(4) 食事 【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
--	---

<コメント>

年間食育計画を作成し、各クラスの月間計画に反映している。子どもたちは午前中によく身体を動かし、「お腹がすいたからご飯が食べたい!」と、すすんで食事を摂ることができるようにしている。食事の完食は求めず、楽しく食事をすることを大事にし、一人ひとりの適量で食べられるようにしている。食育への取り組みは、紙芝居などを使い、年齢に合わせて行っている。幼児クラスでは栄養士と連携し、クッキングの時間を作り、おにぎりやパンにジャムを塗ったり、お月見会のお団子作りなどを行っている。保護者から「家で食が進まない。園ではどんな食事をしているのか」と相談を受けることもあり、保育参観時に保護者の希望があれば、試食ができるようしている。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
--	---

<コメント>

年2回、栄養士が子どもたち全員の栄養計算を行っている。0歳児には初期食から離乳食を提供し、一人ひとりの子どもに合わせて、保護者と連携しながら、無理なく進められるよう対応している。保育士はそれぞれの子どもの食べる量や好みを把握し、給食会議で栄養士や職員間で共有している。栄養士は保育士からの情報や子どもの食事の様子を見回り、残食傾向を把握し、メニューを変えたり、味付け、材料の変更などを行っている。魚や肉、野菜は地域で採れた食材や旬の食材を多く使用して、献立を工夫している。お星様をあしらった七夕のメニュー、サンタクロースのカップケーキなど、季節を感じることができるメニューなども提供している。絵本に出てくる料理のメニューもあり、食事の前に料理が出てくる絵本を読んだりして興味が広がるようにしている。

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
------------------	---------

【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
--	---

<コメント>

0歳から2歳児クラスは連絡帳アプリを使用し、毎日、保護者と情報を共有している。登降園時には、口頭でも伝え合い、保護者と連携を図っている。睡眠時間や排便の状況を共有することで、1日を通しての子どもの様子がわかり、生活のリズムに負担がないように取り組んでいる。降園時には、特に丁寧に伝えるようにしている。3歳児以上のクラスでも連絡帳アプリを使用し、連絡事項や必要に応じて情報交換を行っている。4月に保護者会を開催し、保育内容の理解を図り、意見交換を行っている。保護者の参加できる行事や保育参観などで、子どもたちの成長を共有できる場を設けている。行事の後にはアンケートを実施し、保護者の感想や意見をもらい、次につなげるようにしている。個人面談も定期的に行い、保護者の声を聞いている。

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
-----------------	---------

【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
---	---

<コメント>

子どもたちの登降園時には、積極的に保護者に話しかけ、コミュニケーションをとるよう心がけている。また、保護者が相談しやすいよう、担任の他にだれでも、いつでも、相談ができることを、保護者会や園だよりで知らせている。職員全体で相談しやすい雰囲気を作り、園全体で子どもたちを見守る体制を整えている。保護者からの相談は相談室を使用し、話しやすいよう配慮している。相談内容は記録に残し、担任やリーダー、主任、園長と情報を共有するようにしている。保育参観は日程を決めず、保護者がいつでも希望する日に子どもの様子を見ることができるようになっている。

【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
---	---

<コメント>

児童虐待の早期発見マニュアルを整備している。虐待が疑われた際には、マニュアルに従い、園長を中心に、各機関と連携することになっている。また、市の要保護児童対策地域協議会や子ども家庭センターとも、連携を図ることになっている。日頃より、早期発見、早期対応に努め、疑問を感じた場合には園長や主任に相談し、職員間でも共有するようにしている。保護者に対しては、登降園時のコミュニケーションを心がけ、ストレス傾向などを把握するようにしている。職員は外部研修や園内研修などで、人権について学んでいる。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
------------------------------	---------

【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
--	---

<コメント>

日々の保育内容については、保育日誌でその日の振り返りを行っている。週1回、乳児、幼児のグループ会議を開催し、各フロアの振り返りを行っている。また、月末には評価や反省の場を設け、次月の計画につなげている。そして「自己評価シート」に取り組み、年2回、保育士が自己評価を行っている。自己評価シートの確認に合わせ、園長との個人面談を行っている。